

---

熊谷市

---

# 桜山遺跡Ⅱ

---

埼玉県立循環器・呼吸器病センター駐車場整備工事に係る  
埋蔵文化財発掘調査報告

2012

埼玉県

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

# 序

埼玉県は、県民の誰もが安心して保健医療サービスを利用できる環境を整備し、県民の医療に対する安心と信頼の確保、良質な医療を効率的に提供する体制の確保、さらに生涯を通じた健康の確保を目指しております。

埼玉県立循環器・呼吸器病センターは、循環器および呼吸器系の疾病に関して、必要な医療を提供する高度・専門病院であります。また、地域医療の支援病院でもあり、近年利用者が大幅に増え、病院の整備は急務となっております。

病院の一角は周知の埋蔵文化財包蔵地である桜山遺跡が存在しており、平成4年には、病院建設に伴い発掘調査が実施されております。今回の発掘調査は、病院駐車場の整備に伴う事前調査で、埼玉県病院局の委託を受けて当事業団が実施いたしました。

今回の調査では、縄文時代の遺構とともに当時使われた土器や石器等が発見され、今から約7,000年前にも人々が生活していたことが明らかになりました。

本書はこれら発掘調査の成果をまとめたものであります。埋蔵文化財の保護並びに普及・啓発の資料として、また学術研究の資料として、多くの方々に活用していただければ幸いです。

最後に、本書の刊行にあたり、発掘調査の諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課をはじめ、埼玉県病院局、熊谷市教育委員会並びに地元関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

平成24年7月

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団  
理 事 長 中 村 英 樹

## 例言

1. 本書は熊谷市に所在する桜山遺跡第2次調査の発掘調査報告書である。
2. 遺跡の略号と代表地番、発掘調査に対する指示通知は以下のとおりである。

桜山遺跡第2次調査（桜山2）  
埼玉県熊谷市大字板井1697-2他  
平成24年2月13日付け 教生文第2111-1号
3. 桜山遺跡第2次調査は、埼玉県立循環器・呼吸器病センター駐車場整備工事に伴う埋蔵文化財記録保存のための事前調査であり、埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課が調整し、埼玉県病院局の委託を受け、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 発掘調査・整理報告書作成事業はI-3に示した組織により実施した。

発掘調査は、平成24年4月5日から平成24年4月30日まで実施し、吉田 稔、大和田 瞳が担当した。

整理報告書作成事業は、平成24年5月1日から平成24年5月31日まで、細田が実施し、平成24年7月26日に埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第395集として印刷・刊行した。
5. これまでに刊行された桜山遺跡に関する発掘調査報告書は、以下のとおりである。

『桜山遺跡』1995 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第162集
6. 桜山遺跡の発掘調査における基準点測量は、有限会社ジオプランニングに委託した。遺跡の空中写真撮影は、株式会社GIS 関東に委託した。
7. 発掘調査における写真撮影は吉田、大和田が行い、出土遺物の写真撮影は細田が行った。
8. 出土品の整理・図版作成は細田が行った。
9. 本書の執筆は、I-1を埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、その他を細田が行った。
10. 本書の編集は細田が行った。
11. 本書にかかる諸資料は平成24年6月以降、埼玉県教育委員会が管理・保管する。
12. 発掘調査や本書の編集にあたり、下記の機関、方々からご教示・ご協力を賜った。記して感謝いたします。（敬称略）

熊谷市教育委員会 新井 端 奥野麦生  
森田安彦

# 凡例

1. 桜山遺跡第2次調査におけるX・Yの数値は、世界測地系、国家標準平面直角座標第IX系（原点北緯36°00′00″、東経139°50′00″）に基づく座標値を示す。また、各挿図に記した方位は、全て座標北を指す。
2. 桜山遺跡第2次調査で使用したグリッドは、国家標準平面直角座標に基づく10×10mの範囲を基本（1グリッド）とし、調査区全体をカバーする方眼を組んだ。
3. 桜山遺跡第2次調査のグリッド名称は、北西隅を起点とし、北から南方向にアルファベット（A・B・C…）、西から東方向に数字（1・2・3…）を付し、アルファベットと数字を組み合わせ、例えばD-5グリッド等と呼称した。
4. 本書の本文・挿図・表・写真図版に記した遺構の略号は、以下のとおりである。  
SC…集石遺構、SK…土壙、SD…溝跡、  
P…柱穴
5. 本書における挿図の縮尺は、以下のとおりである。ただし一部の例外もあるため、図中に縮尺とスケールを示した。  
全体図1：200、遺構図1：60  
土器拓影図1：3、石器1：2、1：3
6. 遺構断面図に表記した水準数値は、全て海拔標高（単位m）を表す。
7. 遺物観察表の表記方法は以下のとおりである。
  - ・長さ・幅・厚さはcm単位である。
  - ・重さはg単位である。
8. 本書に使用した地形図は、国土地理院発行1/50,000地形図、熊谷市都市計画図1/2,500を編集・使用した。



# 目次

序  
例言  
凡例  
目次

I 発掘調査の概要	1	IV 遺構と遺物	9
1. 発掘調査に至る経過	1	1. 集石遺構	9
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2	2. 土壌	12
3. 発掘調査・報告書作成の組織	2	3. 溝跡	12
II 遺跡の立地と環境	3	4. 柱穴	12
1. 地理的環境	3	5. グリッド出土遺物	16
2. 歴史的環境	4	V 調査のまとめ	16
III 遺跡の概要	7	1. 遺構について	16
		2. 遺物について	17

写真図版

## 挿図目次

第1図	埼玉県の地形	3	第7図	第1号集石遺構	10
第2図	周辺の遺跡	5	第8図	遺構出土遺物	11
第3図	調査区位置図	7	第9図	溝・土壇	13
第4図	桜山遺跡全体図	8	第10図	柱穴	14
第5図	基本土層	8	第11図	グリッド出土遺物	15
第6図	第1号集石遺構遺物出土状況	9			

## 表目次

第1表	周辺の遺跡	6	第3表	柱穴計測表	14
第2表	土壇計測表	12	第4表	石器観察表	16

## 写真図版目次

図版1	1 桜山遺跡遠景 (南から)	7 第9号土壇 (東から)	
	2 調査区全景	8 石槍出土状況 (東から)	
図版2	1 第1号集石遺構遺物出土状況 (南から)	図版4	1 第1号集石遺構出土石器 (第8図1・2・4~8)
	2 第1号集石遺構 (南から)		2 第6号土壇出土石器 (第8図12)
図版3	1 第1号土壇 (南東から)		3 グリッド出土石器 (第11図1~10)
	2 第2号土壇 (北から)		4 グリッド出土石器 (第11図11)
	3 第3号土壇 (北から)		5 グリッド出土石器 (第11図12)
	4 第4号土壇 (北から)		6 グリッド出土石器 (第11図13~16)
	5 第6号土壇 (北から)		
	6 第7号土壇 (東から)		

# I 発掘調査の概要

## 1. 発掘調査に至る経過

埼玉県では、地域における保健・医療の推進を積極的に図っているところであるが、県立循環器・呼吸器病センターは平成6年の開設（当初は「小原循環器病センター」）以来、地域の医療機関と連携しながら、専門的な高度医療を行う拠点病院としての役割を果たしており、今後も施設や設備のより一層の充実が求められている。

同センターの駐車場の拡張事業については、平成23年8月31日付け経管第465号で、埼玉県病院局経営管理課長から生涯学習文化財課長あてに埋蔵文化財の所在及びその取扱いについての照会があった。

これに対して生涯学習文化財課は、平成23年12月8～9日に遺跡の所在及び範囲等確認のための試掘調査を実施した。その結果、照会箇所のうち西南部の一部範囲に縄文時代の遺構が所在することが判明したので、平成23年12月16日付け教生文第1749-1号で、埋蔵文化財の有無及び取扱いについて、以下のとおり回答を行った（抄）。

### ・埋蔵文化財の所在

名称 (No.)	種別	時代	所在地
桜山遺跡 (65-053)	集落跡 古墳群	縄文、古墳、 平安	熊谷市大字板井字 桜山他

### ・取扱いについて

（工事立会または発掘調査を要する区域について）

現在の工事計画通り、埋蔵文化財の確認範囲にて現状を変更せず、盛土等でこれを保護する場合、工事実施時に当課職員が立ち会うこととしますが、工事計画上やむを得ず現状を変更する場合には、記録保存のための発掘調査を実施してください。

病院局経営管理課と生涯学習文化財課は、その取扱いについて協議を行ったが、盛土で遺構を保護することは困難であることから記録保存の措置を講ずることになった。

その後、発掘調査実施機関である（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団及び、病院局経営管理課、生涯学習文化財課の三者で調査日程などについて協議した。その結果、平成24年4月5日から4月30日まで記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

開発にあたり文化財保護法第94条の規定による埋蔵文化財発掘通知が埼玉県病院事業管理者から提出され、平成24年2月16日付け教生文第4-1336号で、記録保存のための発掘調査を実施するよう、埼玉県教育委員会教育長から勧告した。

また同法第92条の規定による発掘調査届が（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出され、発掘調査が実施された。発掘調査届に対する県教育委員会教育長からの通知は、平成24年4月20日付け教生文第2-10号である。

（埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課）

## 2. 発掘調査・報告書作成の経過

### (1) 発掘調査

桜山遺跡の第2次調査は、平成24年4月5日から平成24年4月30日まで実施した。4月上旬に現場事務所を設置し、表土掘削を行った。その後、基準点測量を行い、人力による遺構の確認作業に着手した。確認した遺構は、4月下旬まで精査を行った。作業の進捗に応じて、土層断面図・平面図等の図面を作成するとともに、写真撮影を行った。4月中旬に空中写真撮影を行い、4月下旬に器材の撤収、発掘事務所の撤去および埋め戻しを行い、4月30日にすべての作業を終了した。

### (2) 整理報告書作成

整理報告書作成作業は、平成24年5月1日から平成24年5月31日まで実施した。

5月上旬に出土遺物の水洗・注記を行った。その後、礫を中心に接合・復元作業を行った。

5月中旬にかけて土器破片を抽出し、拓本・断

面実測作業を行った。また、抽出した石器についても実測作業を行った。実測が終了した遺物を順次トレースし、遺物図版の版組みを行った。

遺構図の作成は、遺物の作業と並行して行った。図面整理と修正を経て第二原図を作成した。第二原図をスキャナーでコンピューターに取り込み、画像ソフトを用いてトレースし、土層説明等のデータを加えて編集作業を行い、遺構図版の版下を作成した。

5月中旬から遺構・遺物図版の割り付け、遺物の写真撮影と写真図版の作成を行うとともに、原稿執筆と編集作業を行った。5月下旬に印刷業者を選定し入稿した。3回の校正作業を経て、7月下旬に報告書を刊行した。なお、遺物や図面・写真等の記録類は分類・整理し、5月末に仮収納した。

## 3. 発掘調査・報告書作成の組織

### 平成24年度（発掘調査）

理 事 長	中 村 英 樹	調査部	
常務理事兼総務部長	根 本 勝	調 査 部 長	昼 間 孝 志
総務部		調 査 部 副 部 長	劔 持 和 夫
総 務 部 副 部 長	富 田 和 夫	調査監兼調査第一課長	瀧 瀬 芳 之
総 務 課 長	矢 島 将 和	主 査	吉 田 稔
		主 事	大和田 瞳

### 平成24年度（報告書作成）

理 事 長	中 村 英 樹	調査部	
常務理事兼総務部長	根 本 勝	調 査 部 長	昼 間 孝 志
総務部		調 査 部 副 部 長	劔 持 和 夫
総 務 部 副 部 長	富 田 和 夫	調査監兼整理第一課長	細 田 勝
総 務 課 長	矢 島 将 和		

## II 遺跡の立地と環境

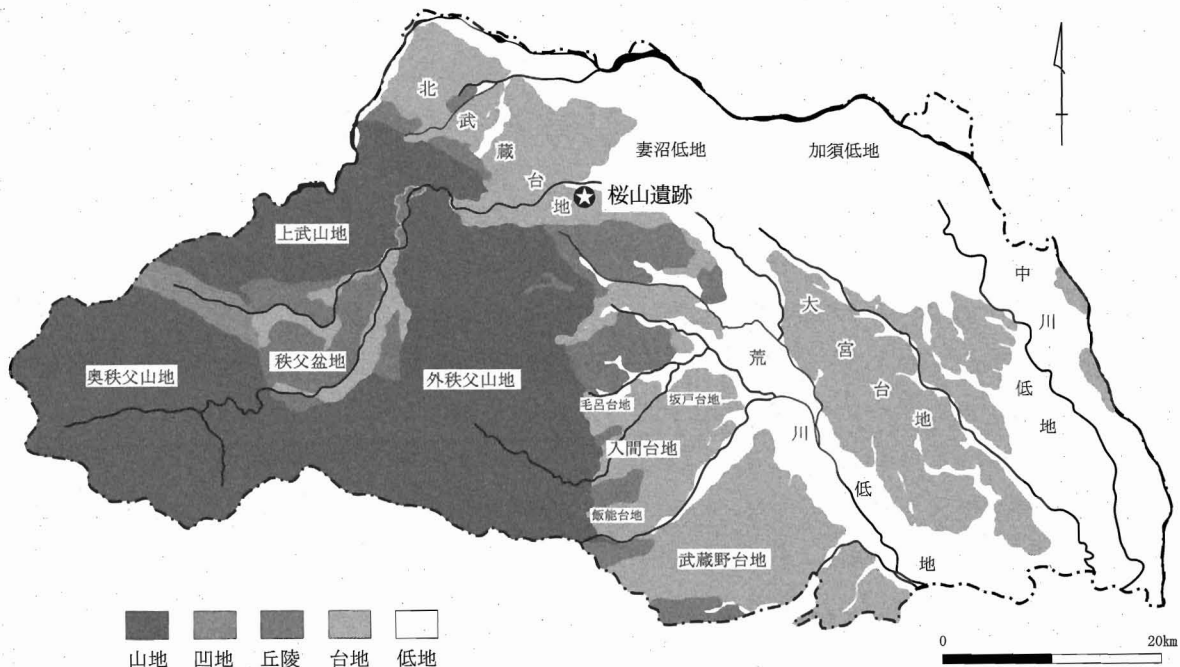
### 1. 地理的環境

桜山遺跡は埼玉県のほぼ中央部、熊谷市大字板井に所在する、縄文時代前期から中後期、平安時代、中近世にかけて営まれた集落遺跡である。遺跡は、荒川右岸に広がる江南台地の中央部に位置しており、周辺は畑地や山林が広がる平坦な地形となっている。

江南台地は、荒川の右岸に広がり、支流である和田川と吉野川とによって開析された、東西に延びる比較的幅の狭い台地である。台地は形成時期の新旧によって立川面と武蔵野面とに分けられており、遺跡の所在するあたりでは5～6mの明瞭な比高差がある。遺跡の乗る武蔵野面の標高は、寄居町木持付近で140m、川本町本田付近で80m、調査地点で約70m、台地の末端に当たる熊谷市新田付近で45mと、東側に向かって高度を下げていく。遺跡は和田川の最奥部左岸に立地し、標高は72mである。

遺跡の南側には、和田川を境に比企丘陵が広がっている。この丘陵は荒川の支流である滑川や市野川及びその支流によって開析され、比較的平坦面の少ない痩せ尾根状の景観を示している。丘陵の西側に広がる外秩父山地と丘陵・台地との境界には、八王子構造線とよばれる比較的明瞭な地形の変換ラインがあることが知られている。

桜山遺跡は、循環器病センターの建設に伴い、当事業団が平成4年に第1次の発掘調査を実施した。調査地点は第2次調査地点の約400m南東に位置し、和田川左岸の標高約71mの台地上である。調査の結果、奈良時代の竪穴住居跡3軒と土壙、溝跡などが検出された。また、旧江南町が実施した分布調査によって、遺跡内から縄文時代中期の土器や石器も採集されたことから、同時期の集落が存在する可能性も指摘されていた。



第1図 埼玉県の地形

## 2. 歴史的環境

桜山遺跡の立地する江南台地や、南側に広がる比企丘陵、西に広がる外秩父山地周辺には、旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、さらには古代から中世にいたる数多くの遺跡が存在する。ここでは、旧石器時代から古墳時代までの遺跡について概観してみたい。

旧石器時代の遺跡では、吉野川右岸の白草遺跡(No.4)が著名である。白草遺跡は旧石器時代終末期の細石器が多量に出土したことで知られている。出土石器は、湧別技法によって製作されたと考えられる細石刃や荒屋型彫器、彫刻刀型石器、その削片などで、石材に珪質頁岩を多用していることも特徴的である。石器の出土量に比べ、石核が極めて少ないことから、石器製作後、石核は他所に持ち出されたものと考えられている。

これらの石器群が内水面漁撈、とりわけサケ・マス漁と関係している可能性があることや、白草遺跡に隣接する四反歩遺跡(No.8)で出土した縄文時代草創期前半期の石器群が、サケの骨が出土した東京都前田耕地遺跡の石器組成と酷似しているなどの指摘(川口 1993)もある。旧石器時代から縄文時代草創期にかけて、利根川や荒川を遡ったサケ・マスを対象に、人々が季節性の漁撈を行っていた可能性も考えられよう。

縄文時代早期から前期にかけても、和田川や吉野川に面した台地上には多くの遺跡がみられる。四反歩遺跡からは、縄文時代早期前半期の燃糸文期の住居跡や土壇などが発見されている。出土したスタンプ形石器、磨石や石皿、打製石斧などの石器から、この地域では、早期前半期に有用植物を利用した定住生活が始まったことを示している。

早期前半の燃糸文期の遺跡には、白草遺跡や南方遺跡(No.13)、萩山遺跡(No.14)などがあり、

四反歩遺跡周辺に燃糸文期の遺跡が多いことがこの地域の特徴といえよう。しかし、縄文時代早期後半期では、遺跡数が少なく、規模も比較的小さい

ようである。

今回の調査では、今から約8,000年前の縄文時代前期初頭の遺物が出土した。この時期の遺跡には、秩父市下段遺跡(西井 1989)や坂戸市中耕遺跡(杉崎 1993)などがあり、周辺でも遺跡が増加する傾向が窺える。やがて、縄文海進が頂点を迎えた縄文時代前期前半から後半期には、海岸沿いでは貝塚が盛んに造られ、それに比例するように内陸部でも集落の形成が活発となり、大規模なものも出現するようになった。

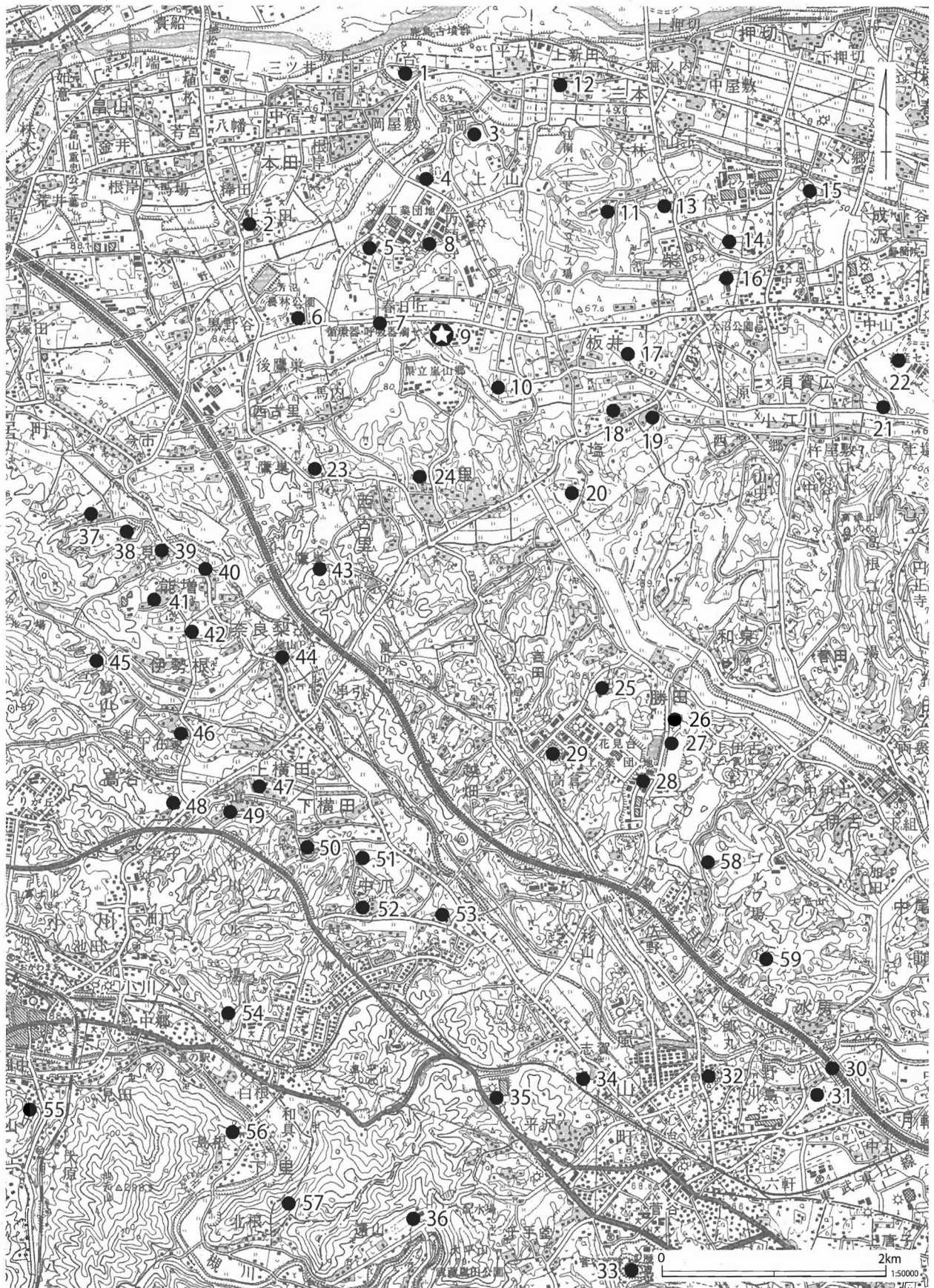
桜山遺跡周辺では、諸磯a式を主体とした竹ノ花遺跡(No.3)や円阿弥遺跡(No.5)がある。比企丘陵一帯では、関山式から黒浜式、諸磯式にかけての集落である平松台遺跡(No.54)や番場遺跡(No.46)、黒浜式の集落が検出された山根遺跡(No.36)、諸磯a式の住居が検出された神名沢B遺跡(No.55)など、この時期には数多くの集落が形成された。恐らく温暖で安定した環境であったことも要因の一つであろう。平松台遺跡は住居跡も多く、この地域を代表する大規模集落と考えられる。

前期後半期以降は遺跡数・規模ともに前時期の面影をほとんど窺うことができない。しかし前期終末の特に諸磯c式から十三菩提式前半期には、滑川や市野川に面した比企丘陵上には、番場遺跡や芳沼入遺跡(No.29)、新田坊遺跡(No.28)等の小規模で継続期間も短い集落が点在している。近年、荒川低地帯の自然堤防上では、ほぼ同じ時期の遺跡が発見されたが、荒川の支流である滑川を介した遺跡間の関連性が注目される。

集落の形成が再び活発となるのは、縄文時代中期後半期で、山神遺跡(No.11)はこの時期を代表する集落である。縄文時代後期以降には、この地域一帯にまとまった集落遺跡の存在は知られていない。この地域が再び注目を集めるのは、弥生時代後期に入ってからであろう。

弥生時代後期の吉ヶ谷式期には、再び集落の形





第2図 周辺の遺跡

成が活発となった。遺跡が見出されるのは江南台地で、高位の武蔵野面に立地している諸遺跡である。現在までに、白草遺跡で22軒、円阿弥遺跡で5軒、焼谷遺跡(No.6)で7軒、四反歩遺跡などで5軒の住居跡が調査されており、弥生時代後期に至って、比企丘陵から江南台地一帯に開発の手が入ったことを示している。

弥生時代後期に比較すると、古墳時代初頭の遺跡は極めて少ないようである。この周辺の様相が大きく変わってくるのは、古墳時代後期以降のことであろう。特に古墳時代後期には規模の大きな集落が営まれるようになった。和田川や吉野川以外に、市野川や滑川流域でも様相は似ているようであり、恐らく河川沿いの低地帯では、水田の開発が行われたのであろう。

集落規模の拡大と増加に比例して、古墳の築造も盛んとなった。詳細は不明ながら、桜山遺跡の位置する和田川最上流にも、円墳を主とする桜山

第1表 周辺の遺跡

市町村名	番号	遺跡名	主な時代
深谷市 (旧川本町)	1	鹿島古墳群	
	2	上本田	縄中
	3	竹ノ花	縄前、奈・平
	4	白草	旧、縄早・前、弥、古
	5	円阿弥	縄前、弥、古、平
	6	焼谷	弥
	7	春日丘	
	8	四反歩	縄早・前・後、弥、奈・平
熊谷市 (旧江南町)	9	桜山	縄前・中? 奈
	10	立野古墳群	古
	11	山神	縄中・後
	12	新田裏古墳	6末~7
	13	南方	縄早・中
	14	萩山	縄早
	15	上前原	縄早・前・中・後、古
	16	原谷	縄草、古
	17	国光寺北裏	
	18	塩西	縄中、古
	19	船川	縄早・中
	20	塩西、塩古墳群	縄早、古
	21	本田東台	縄早、古墳集落
	22	向原	
嵐山町	23	神山	
	24	上耕地	
	25	蟹沢	弥
	26	尺尻北	縄前
	27	尺尻	縄前
	28	新田坊	縄前
	29	芳沼入	縄早・前、弥、奈
	30	屋田	縄早・前・晩、弥、古
	32	花見堂	縄晩、平

古墳群が存在したようである。桜山遺跡の南東側、和田川の左岸には立野古墳群(No.10)が存在する。立野古墳群は平成16年に旧江南町教育委員会により発掘調査が実施され、10基の円墳と小石室1基が発見され、7世紀代に営まれたことが明らかとなった。

吉野川右岸では、鹿島古墳群(No.1)や新田裏古墳群(No.12)などが分布する。特に鹿島古墳群は、6世紀末から8世紀にかけて営まれたと考えられ、88基の円墳が確認されている。

立野古墳群とは和田川を挟んだ対岸や、滑川に面した比企丘陵側では、塩古墳群(No.20)が存在する。

奈良・平安時代の遺跡も古墳時代から継続して営まれたものが多いようであり、桜山遺跡第1次調査で、奈良時代の住居跡が検出されたことから、周辺には古墳時代の住居跡も存在した可能性が窺える。

市町村名	番号	遺跡名	主な時代	
嵐山町	33	菅谷館跡	中	
	34	金平I・II	縄早・中、古、平、中	
	35	遠道		
	36	山根	縄前	
	小川町	37	日丸	奈・平、中
		38	町場	縄中
39		六所	奈・平、中	
40		東	平	
41		都谷	奈・平	
42		大杉	奈・平	
43		鷹巣古墳群		
44		台ノ前	縄中(勝)	
45		天神谷		
46		番場	縄前・中	
47		中井	奈・平	
48		北蟹山	縄前・中	
49		宮ノ脇	弥、平	
50		稲岡	平	
51		久保谷戸	縄中、平	
52		日向	縄、平	
53		本宿前		
54		平松台	縄前・中	
55		神名沢B	縄早・前	
56	笠郷	縄、奈・平		
57	内寒沢	平		
滑川町	31	月輪遺跡群	縄、古、中・近	
	58	柳沢A	奈・平	
		柳沢B	縄、平	
	59	年中坂A	縄、平	
年中坂B		縄、平		



### Ⅲ 遺跡の概要

熊谷市大字板井に所在する桜山遺跡は、荒川の支流である和田川の左岸に立地している。

遺跡は、循環器・呼吸器病センターの建設に伴い、平成4年度に第1次の発掘調査が行われ、奈良時代前半期の竪穴住居跡3軒と土壇33基、溝跡3条が検出された。また、土師器や須恵器とともに縄文時代前期の土器や石器が出土した。遺跡内から縄文時代中期の土器も採集されている。このことから、桜山遺跡は、縄文時代前期から中期、奈良時代の集落遺跡である可能性が考えられている。

今回の調査は、埼玉県立循環器・呼吸器病センターの駐車場整備工事に伴い実施されたもので、第1次調査区とは直線距離にして北西に約400m離れている。いずれも和田川の左岸に位置するが、今回の調査範囲は谷から離れており、標高が

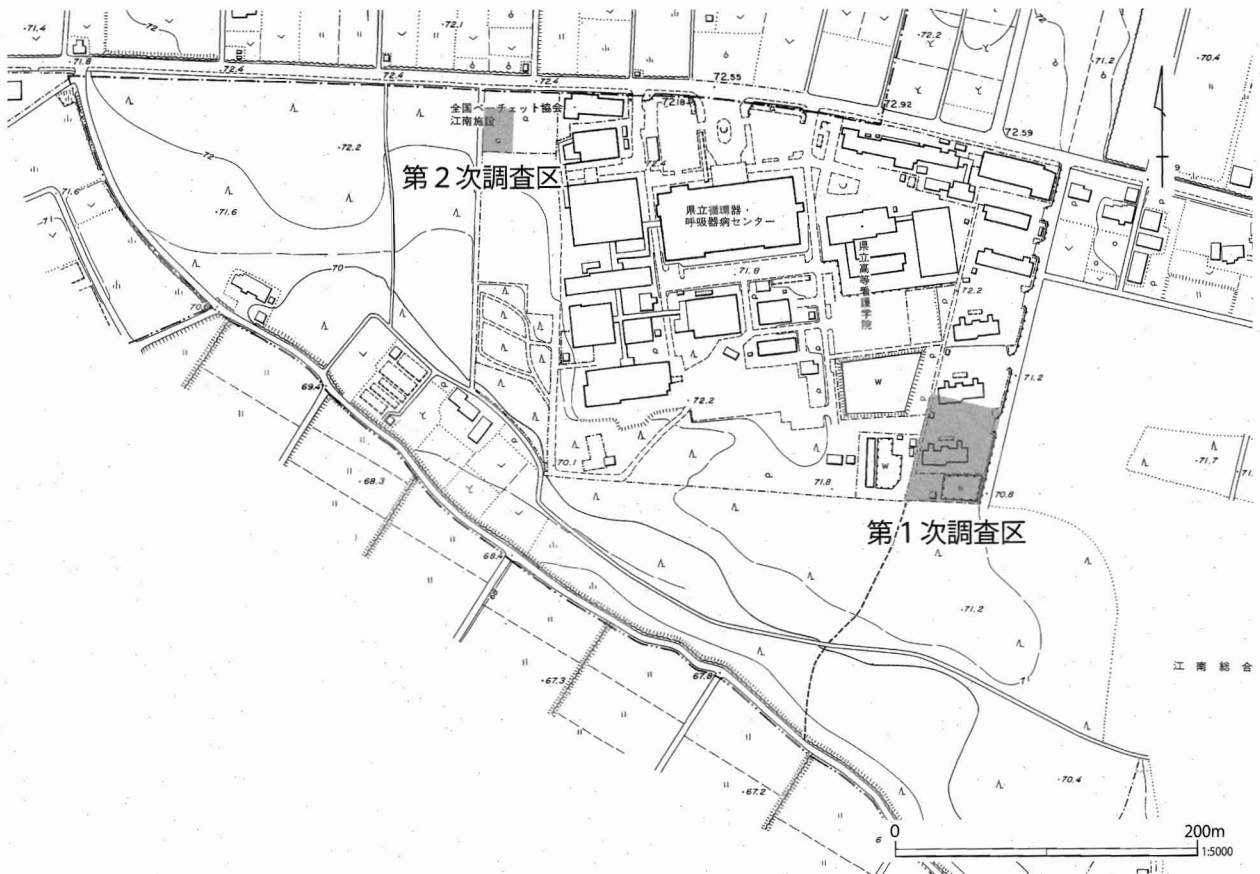
72mのほぼ平坦な地形である。

第5図に調査区の基本土層を示した。第I層表土、第II層暗褐色土、第III層ソフトローム、第IV・V層ハードローム、第VI層黒色帯である。

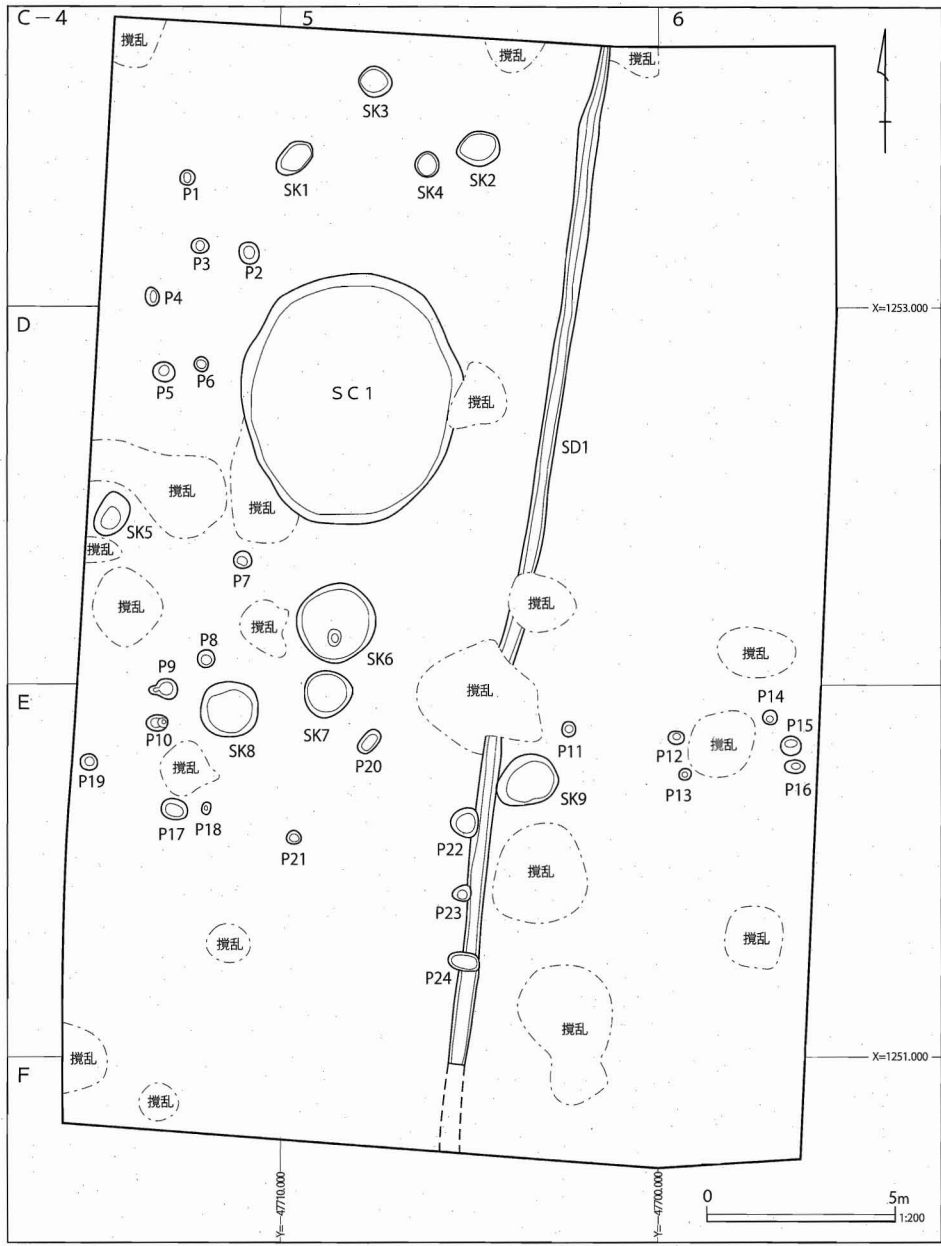
今回の調査で検出された遺構は、縄文時代前期と考えられる集石遺構1基、土壇9基、古代と考えられる溝跡1条、柱穴24基である。

集石遺構は調査区の北西側で検出された。径が約6mの範囲に、被熱した礫が意図的に撒かれたような状況で検出された。集石遺構からは出土しなかったが、周辺より出土した土器から、縄文時代前期初頭の遺構と判断した。

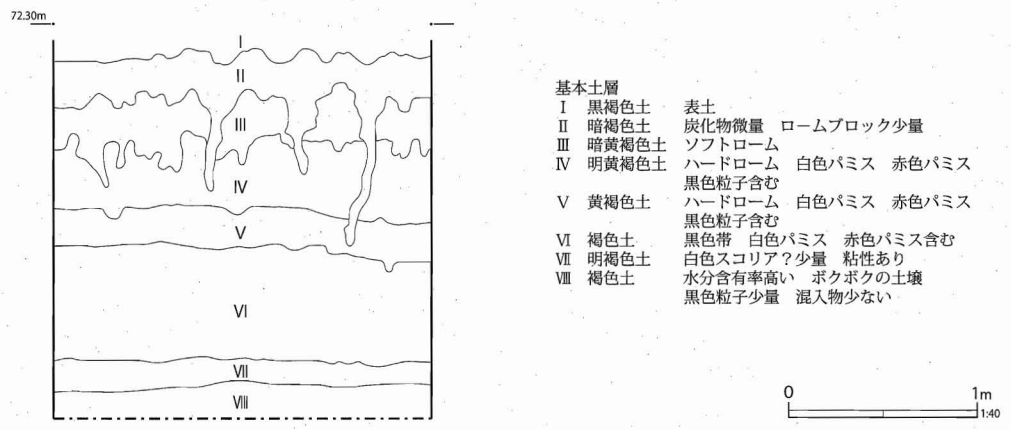
土壇は9基検出されたが、遺物が出土したものは1基のみで、覆土の状況から縄文時代と判断した。溝跡は1条のみで、これも覆土の状態から古代に帰属する遺構と判断した。



第3図 調査区位置図



第4図 桜山遺跡全体図



第5図 基本土層

# IV 遺構と遺物

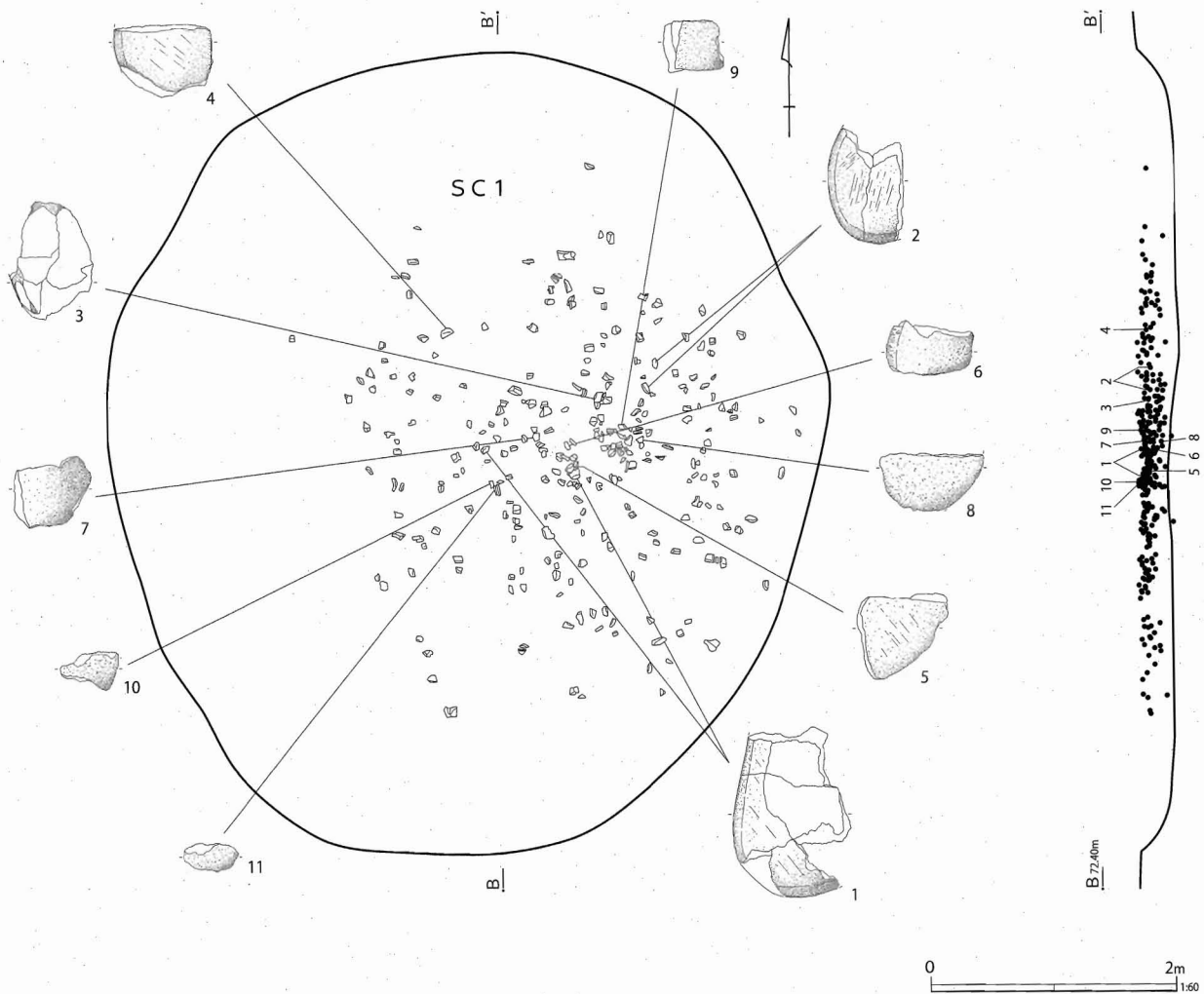
## 1. 集石遺構 (第6～8図)

第1号集石遺構は、調査区北西寄りのC・D-4～5グリッドで検出された。長径が6.5m、短径が5.5mの楕円形である。床面には緩い起伏があり、壁際から中央部に向かってわずかに傾斜している。検出面からの深さは、壁際で平均0.35m、中央部で0.40m前後である。

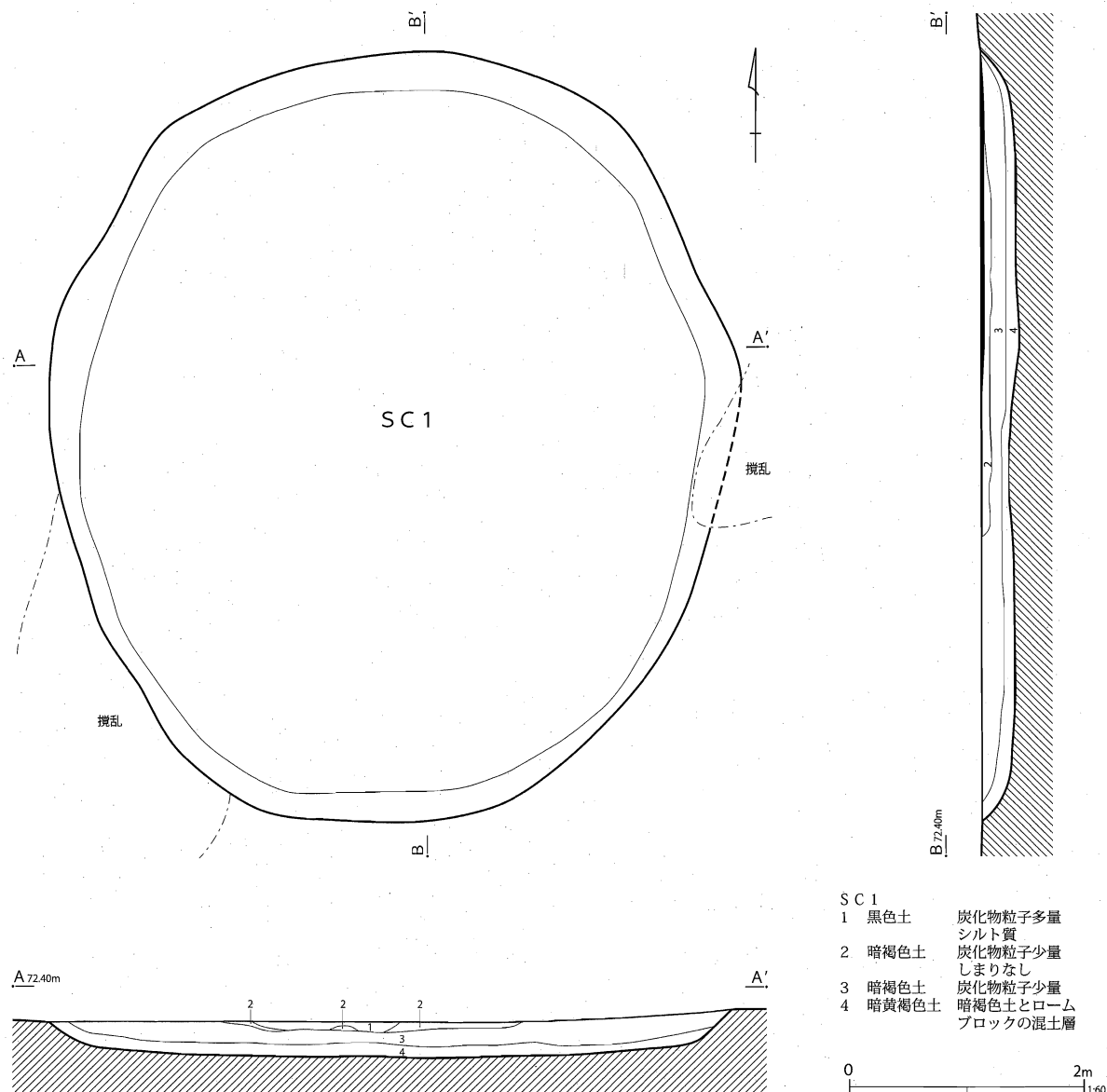
遺構検出時に、比較的広い範囲に礫が散布していたことから、住居跡を想定して調査を開始した。加えて、被熱した礫が多かったことから、当初は住居として利用され、廃絶後に人為的に礫が

投棄された可能性を考えた。

調査を進める過程で、礫は覆土の第3層に集中し、第4層からはほとんど出土しないことが判明し、これらは一時に廃棄されたものと判断した。出土した礫は細かく割れたものが多かったが、これは、熱を受けた後に急激に冷えたためと考えられる。なお、礫の中には磨石の破片と思われるものも存在した。礫を取り上げた後に覆土を掘り下げ、床面を精査したものの、炉跡や柱穴を検出することはできず、床や壁にも被熱した形跡は認め



第6図 第1号集石遺構遺物出土状況



第7図 第1号集石遺構

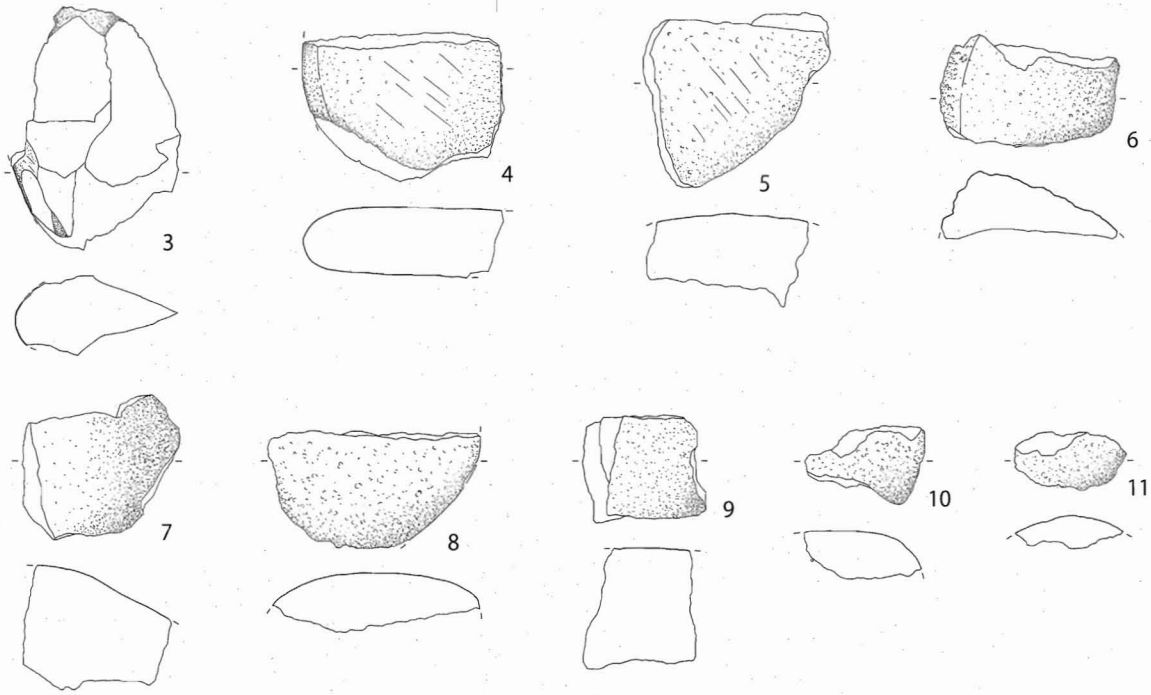
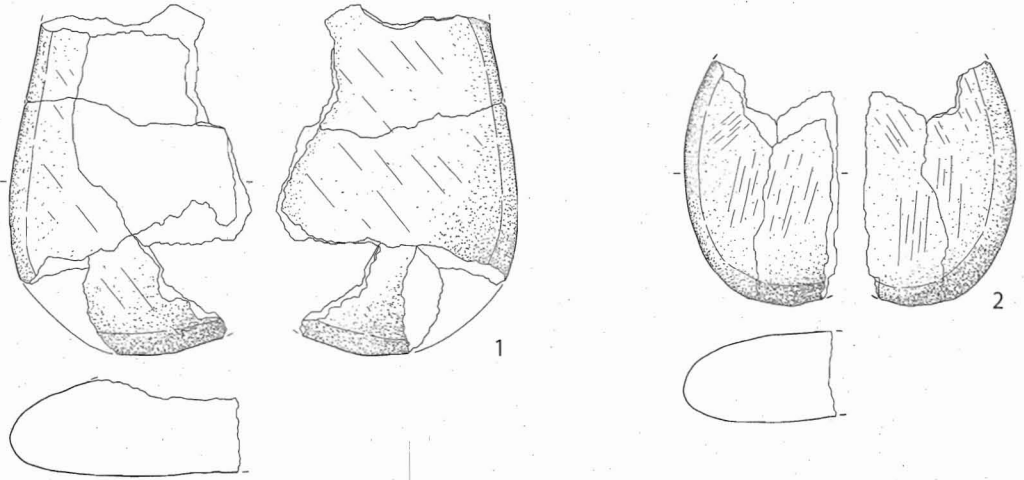
られなかった。よって、本遺構が、礫の廃棄以前にどのように用いられたかを確定することはできないが、居住以外を目的とした施設である可能性は高く、廃絶後にある程度埋没が進んだ段階で、礫が人為的に投棄されたものであろう。

遺構覆土内から土器が出土しなかったため、遺構の正確な時期は不明である。但し、当該グリッドから第11図1～2、8が出土していることから、時期的には縄文時代前期初頭の花積下層式に

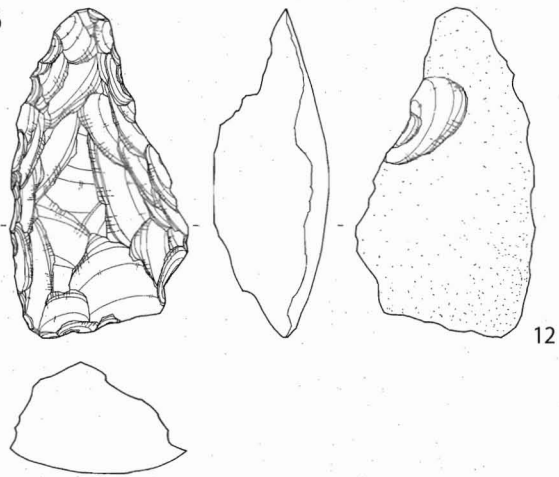
相当すると考えられる。

第8図1～11が集石遺構から出土した石器である。1と2は全体の1/3ほどが残存し、全体の形状や大きさが推定できる。平坦面に摩耗痕が認められることから、磨石と考えられる。他の石器も磨石と考えられるが、殆どが破碎しているため、詳細は不明である。6は風化が激しいながらも、表面に敲打痕が認められることから、あるいは敲石ではなかろうか。

SC1



SK6



第8図 遺構出土遺物

## 2. 土壙 (第8～9図)

### 第1号土壙

C-5グリッドで検出された。楕円形で、長径1.10m、短径0.70m、深さ0.27m、主軸方位はN-45°-Eである。遺物は出土しなかった。

### 第2号土壙

C-5グリッドで検出された。楕円形で、長径1.2m、短径0.94m、深さ0.28m、主軸方位はN-25°-Eである。遺物は出土しなかった。

### 第3号土壙

C-5グリッドで検出された。円形で、径が0.90m、深さ0.31mである。遺物は出土しなかった。

### 第4号土壙

C-5グリッドで検出された。円形で、径が0.66m、深さ0.32mである。遺物は出土しなかった。

### 第5号土壙

D-4グリッドで検出された。楕円形で、長径1.20m、短径0.80m、深さ0.38m、主軸方位はN-32°-Wである。遺物は出土しなかった。

### 第6号土壙

D-5グリッドで検出された。円形で、径が

2.10m、深さが0.30m、ピット底面までの深さは0.50mである。覆土から打製石斧が1点出土した。

第8図12が第6号土壙出土の打製石斧である。黒色頁岩製で、分割した礫を素材とする。縁辺を水平方向に回転させながら急角度の刃部を作出している。

### 第7号土壙

E-5グリッドで検出された。円形で、径が1.30m、深さが0.25mである。遺物は出土しなかった。

### 第8号土壙

E-4グリッドで検出された。円形で、径が1.50m、深さは0.32mである。遺物は出土しなかった。

### 第9号土壙

E-5グリッドで検出された。楕円形で、長径1.65m、短径1.35m、深さ0.33m、主軸方位はN-29°-Eである。遺物は出土しなかった。

第2表 土壙計測表 (第9図)

グリッド	番号	平面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	主軸方位	備考
C-5	1	楕円	1.10	0.70	0.27	N-45°-E	
C-5	2	楕円	1.16	0.94	0.28	N-25°-E	
C-5	3	円	0.90		0.31		
C-5	4	円	0.66		0.32		
D-4	5	楕円	1.20	0.80	0.38	N-32°-W	
D-5	6	円	2.10		0.30~0.50		打製石斧出土
E-5	7	円	1.30		0.25		
E-4	8	円	1.50		0.32		
E-5	9	楕円	1.65	1.35	0.33	N-29°-E	

## 3. 溝跡 (第4図)

第1号溝跡は調査区を南北に縦断するように検出された。柱穴によって一部が壊されており、F-5グリッドから南側では底面まで削平されていた。

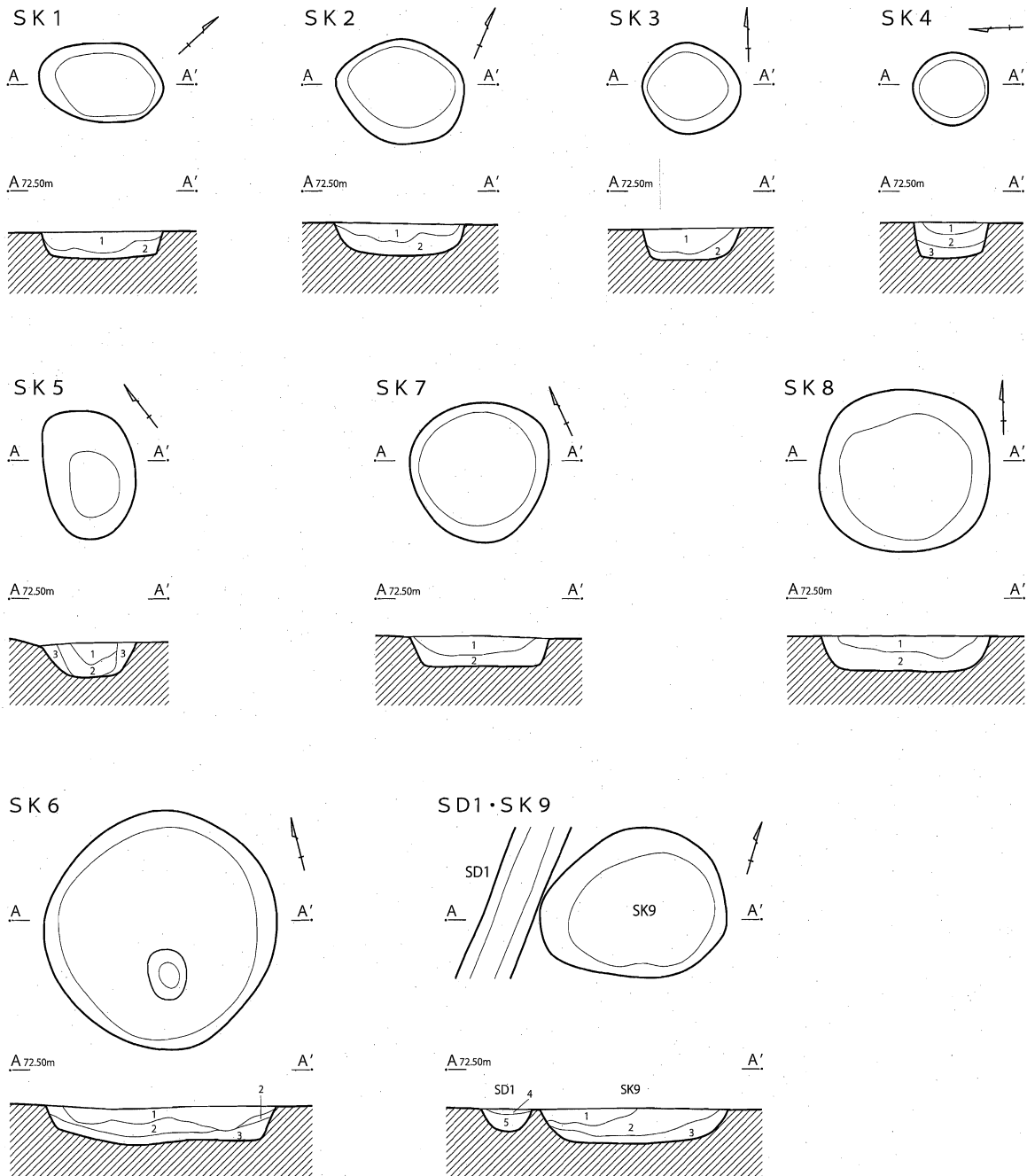
溝は幅が0.50m、深さは0.20m前後である。覆

土は黒色土1層のみで、水が流れた形跡はない。E-5グリッドで第9号土壙と接しており、柱穴によっても一部が壊されている。遺物は出土せず、時期は不明である。

## 4. 柱穴 (第10図)

桜山遺跡の調査では、総数24基の柱穴が検出された。調査区の北東側C・D-6グリッドからは柱穴は検出されなかったが、調査区内に散在しており、組み合わせるものはない。遺物が出土しなかつ

たため、詳細な時期は判別しがたい。覆土は第1層が炭化物粒子を多く含む黒褐色土、第2層はロームを多く含む暗褐色土である。検出位置と計測値等を第3表にまとめた。



SK 1~3・7・8

- 1 暗褐色土 炭化物粒子・ロームブロック少量
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK 4

- 1 暗褐色土 炭化物粒子・黒褐色土ブロック少量
- 2 暗褐色土 炭化物粒子・ロームブロック少量
- 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK 5

- 1 黒褐色土 炭化物粒子・ロームブロック少量 しまりややあり
- 2 黒色土 炭化物粒子多量 しまりなし
- 3 暗褐色土 黒褐色土ブロックとロームブロックの混土层

SK 6・9

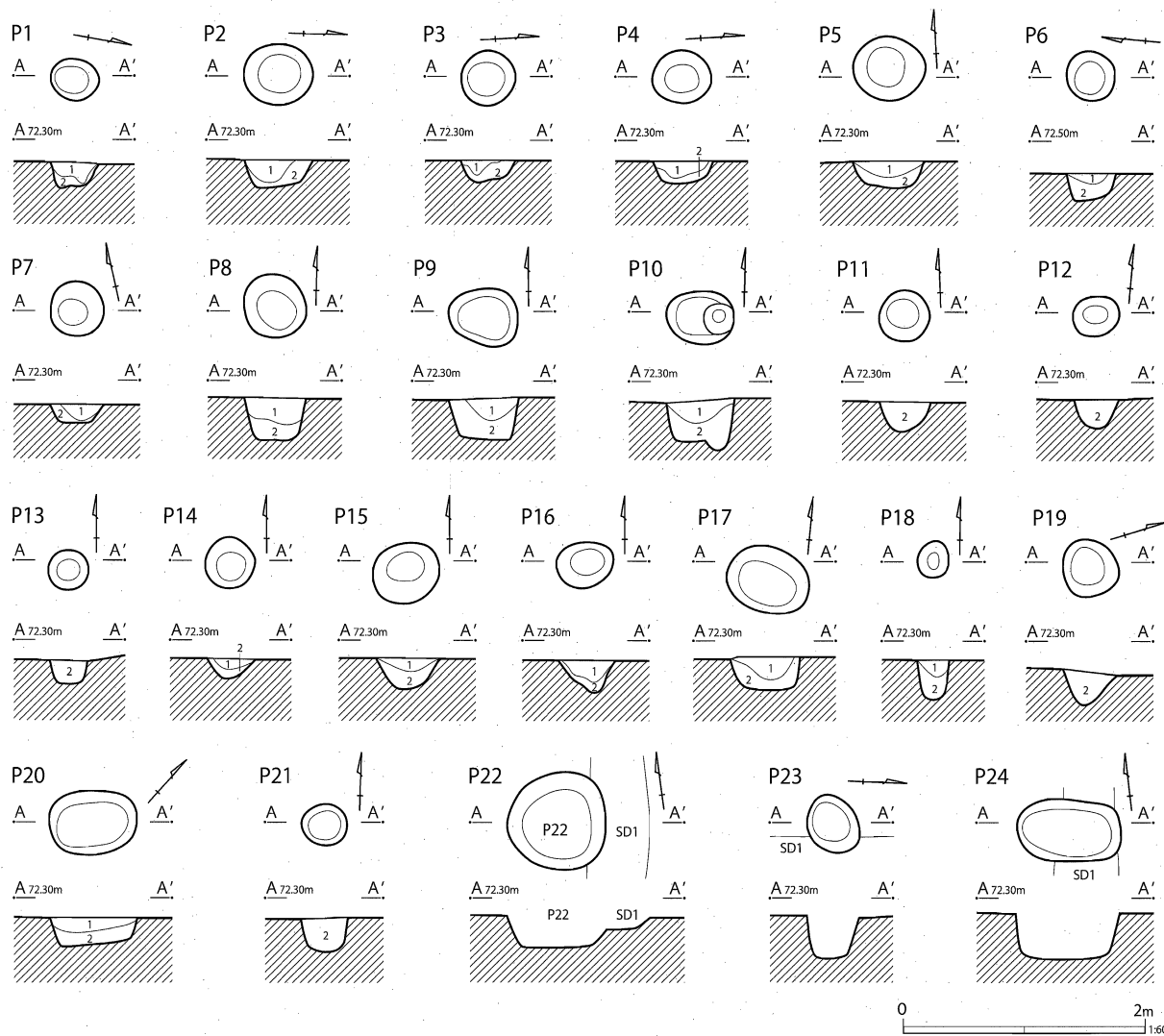
- 1 黒褐色土 炭化物粒子少量
- 2 暗褐色土 ロームブロック少量
- 3 暗黄褐色土 ロームブロック主体

SD 1

- 4 黒色土 シルト質 炭化物粒子多量 しまりややあり
- 5 暗褐色土 粘質 暗褐色土ブロック多量 黒色土小ブロック少量 しまりややあり



第9図 溝・土壌

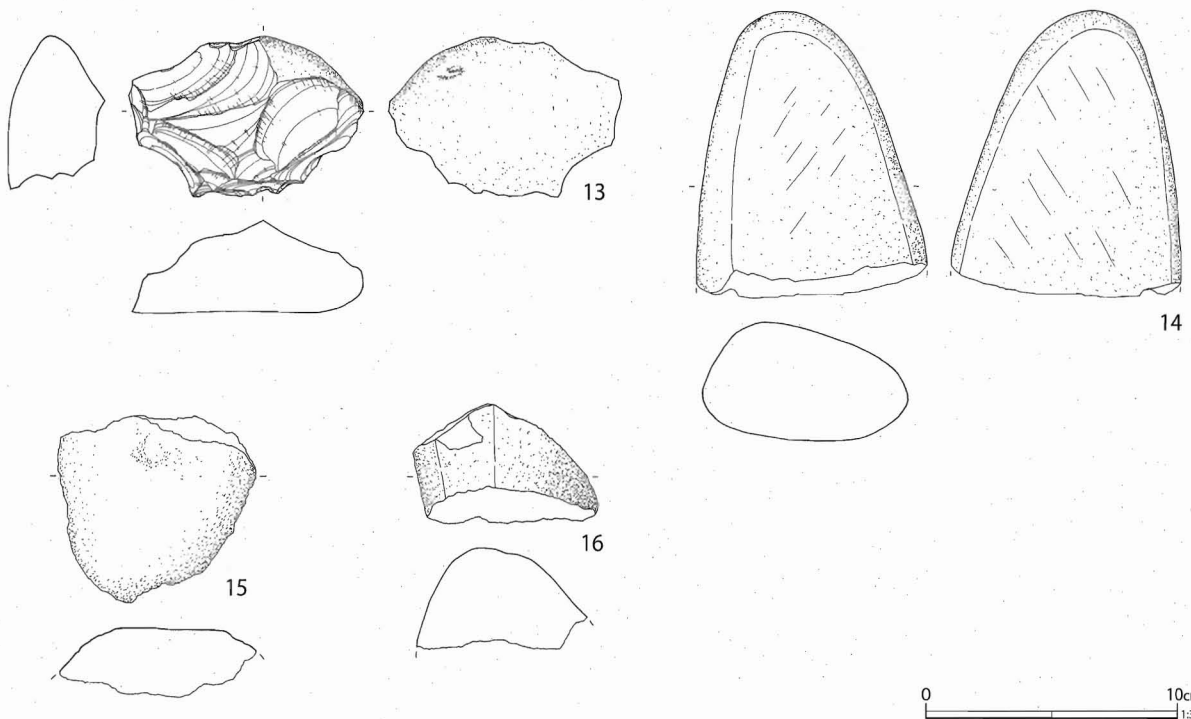
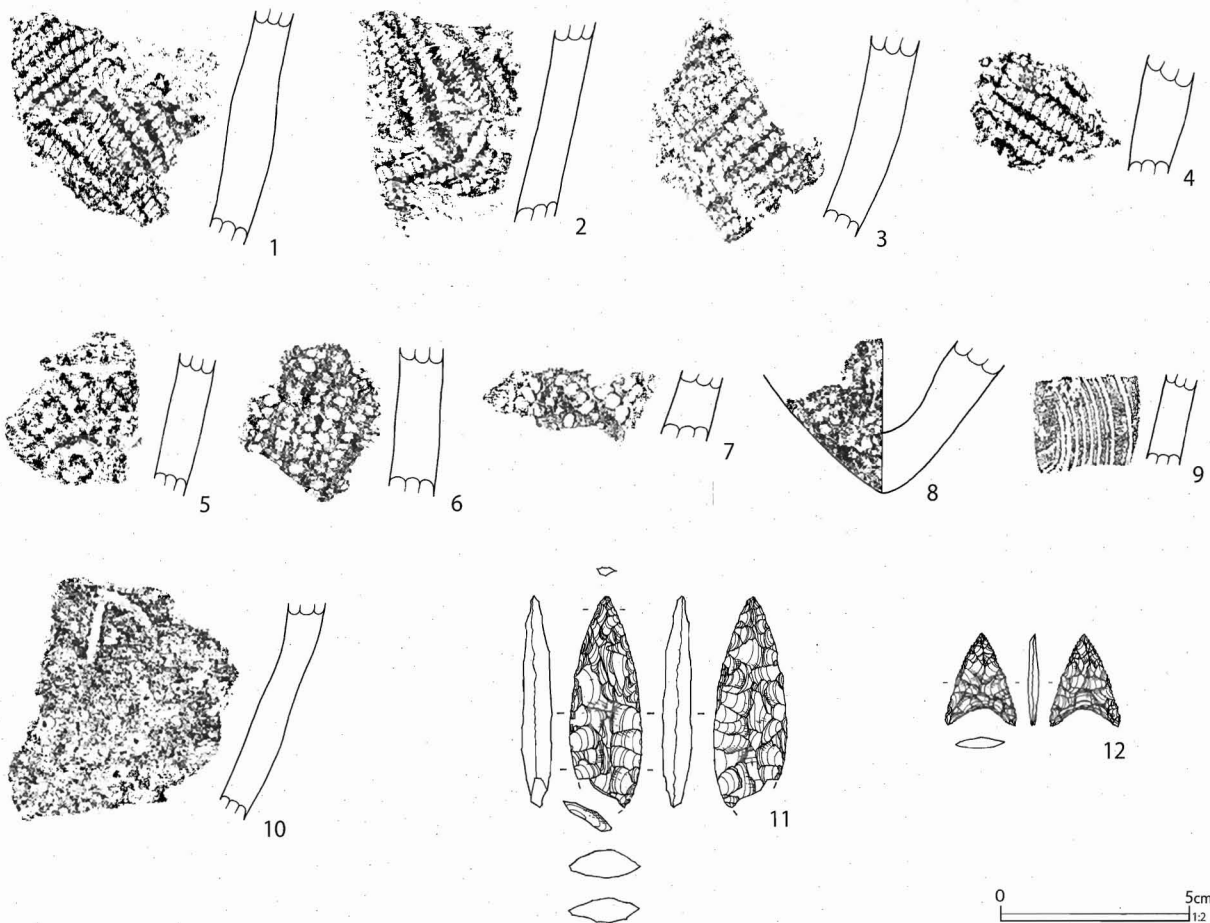


第10図 柱穴

第3表 柱穴計測表 (第10図)

番号	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	備考	番号	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	備考
1	C-4	0.40	0.36	0.22	1・2層	13	E-6	0.30		0.18	2層
2	C-4	0.67	0.50	0.23	1・2層	14	E-6	0.40		0.17	1・2層
3	C-4	0.45	0.45	0.18	1・2層	15	E-6	0.60	0.46	0.23	1・2層
4	C-4	0.48	0.44	0.18	1・2層	16	E-6	0.50	0.36	0.26	1・2層
5	D-4	0.62	0.50	0.20	1・2層	17	E-4	0.70	0.53	0.26	1・2層
6	D-4	0.40		0.23	1・2層	18	E-4	0.30	0.25	0.34	1・2層
7	D-4	0.46		0.16	1・2層	19	E-4	0.50	0.45	0.30	1層
8	D-4	0.50		0.35	1・2層	20	E-5	0.70	0.50	0.25	1・2層
9	E-4	0.60	0.50	0.36	1・2層	21	E-5	0.36		0.33	2層
10	E-4	0.60	0.40	0.40	1・2層	22	E-5	0.80		0.25	
11	E-5	0.40		0.22	2層	23	E-5	0.50	0.40	0.29	
12	E-6	0.38	0.30	0.23	2層	24	E-5	0.84	0.50	0.34	





第11図 グリッド出土遺物

## 5. グリッド出土遺物 (第11図)

1～8は胎土に繊維を含み、器面に羽状縄文が施文される土器である。原体が斜位に施文されるため、横帯間で揃う綺麗な羽状縄文となっていない点の特徴である。土器はいずれも繊維を多く含み、内面整形が雑である。1～4の原体は0段3条で1～2はRLとLRによる羽状縄文である。胎土や色調から、1～4は同一個体の可能性がある。8は尖底で器面には縄文が施文されており、胎土や整形などが6～7に近い。これらの特徴から、前期初頭の花積下層式と考えられる。

10は後期前葉と考えられるが、器面の風化が著

しく、詳細は不明である。2は後期後葉に比定されよう。

11はチャート製の槍先形尖頭器で、基部が欠損している。調整加工が器体の内側まで及ぶため、素材剥片の大きさや形状は不明である。全体を大きな平坦剥離によって丁寧に整えられた後に、先端部を細部調整によって仕上げている。12は無茎石鏃で丁寧に剥離が施されているが、風化が著しい。13は礫器で、円礫の片側を水平方向に回転させて刃部を作り出している。14～16は磨石で、14は平坦部に若干の摩耗痕が見られる。

第4表 石器観察表

図	図版	出土位置	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
第8図1	4-1	SC-1	磨石	閃緑岩	[13.85]	[9.65]	[3.75]	536.10
第8図2	4-1	SC-1	磨石	安山岩	[9.55]	[6.15]	3.55	285.30
第8図3		SC-1	磨石	安山岩	[9.65]	[6.75]	[3.20]	169.75
第8図4	4-1	SC-1	磨石	砂岩	[5.90]	[8.15]	2.80	204.67
第8図5	4-1	SC-1	磨石	閃緑岩	[7.00]	[7.55]	[3.70]	214.75
第8図6	4-1	SC-1	磨石	ホルンフェルス	[4.45]	[7.20]	[2.70]	93.86
第8図7	4-1	SC-1	磨石	砂岩	[5.84]	[6.40]	[4.90]	158.25
第8図8	4-1	SC-1	磨石	閃緑岩	[4.65]	[8.55]	[2.40]	104.73
第8図9		SC-1	磨石	砂岩	[4.30]	[4.55]	[4.80]	129.01
第8図10		SC-1	磨石	閃緑岩	[3.10]	[4.80]	[1.90]	27.05
第8図11		SC-1	磨石	閃緑岩	[2.35]	[4.45]	[1.30]	12.33
第8図12	4-2	SK6	打製石斧	黒色頁岩	13.10	7.15	4.15	350.68
第11図11	4-4	E-5	槍先形尖頭器	チャート	[5.65]	1.95	0.80	7.53
第11図12	4-5	E-5	石鏃	頁岩	2.45	1.90	0.30	0.95
第11図13	4-6	E-4	礫器	ホルンフェルス	6.40	9.30	3.65	229.42
第11図14	4-6	E-5	磨石	閃緑岩	[11.35]	9.10	4.70	697.15
第11図15	4-6	T-8	磨石	砂岩	[4.75]	[7.40]	[4.00]	145.63
第11図16	4-6	T-8	磨石	閃緑岩	[7.45]	[7.95]	[2.70]	189.36

## V 調査のまとめ

### 1. 遺構について

桜山遺跡は、荒川の支流である和田川の最奥部の左岸側に広がる遺跡である。平成4年に実施された第1次調査では、奈良時代前半の住居跡3軒を含め、土壌や溝跡などが検出された。

今回の第2次調査区は、第1次調査区の約400m北西に位置し、和田川から北に延びる浅い谷に面している。検出された遺構は、集石遺構1

基と土壌9基、溝跡1条、柱穴24基である。このうち縄文時代の可能性が高い集石遺構や土壌は、この谷を囲むように分布していることから、恐らく今調査区の西側にも、この時期の遺構が広がっているものと推定される。

縄文時代の遺構では、第6号土壌を除き、出土遺物から時期が推定できるものはない。しかし、

集石遺構が検出されたD-5グリッドでは、前期初頭の花積下層式土器が出土したことから、集石遺構もこの時期の所産とみて差し支えないであろう。また、集石遺構と土壌の覆土に類似性が認められることや、第6号土壌から出土した肉厚の打製石斧の特徴などから、土壌も花積下層式期の所産と推定される。

集石遺構から出土した礫は、細かく破碎したものがほとんどである。また被熱した痕跡をもつものも多く認められたことから、例えば蒸し焼きなどの調理を目的に礫が加熱された後に、急速に冷

## 2. 遺物について

今回の調査では、旧石器時代の尖頭器、縄文時代前期と後期の土器および石器が出土した。旧石器時代については、図示した尖頭器以外に遺物は出土しなかった。

縄文時代の遺物は土器と石器である。このうち、土器は前期初頭と後期の破片が少量出土したのみである。縄文時代前期の土器は、肉厚で繊維を多量に含み、縄文が施文される尖底土器である。縄文は撚りの異なる0段3条の原体により、羽状縄文が施文された破片もあることから、花積下層式と判断した。

花積下層式は、口縁部の原体側面圧痕と胴部の整った羽状縄文で構成される土器である。近年の資料蓄積により、早期末の条痕文土器から前期前葉の関山式への変遷が捉えられるようになってきた。花積下層式土器とは、口縁部の沈線や胴部の条痕施文を縄に置き換えることで、中部から関東で新たに成立した土器と言えよう。秩父市下段遺跡(西井 1989)や群馬県五目牛清水田遺跡(藤巻ほか 1993)では、包含層や遺構から、この間

やされることによって破碎したものと考えられる。出土礫のなかには磨石の破片も含まれていたが、他と同様に破碎していたので、製粉などの目的で使用され、破損した後に再利用されたことは明らかである。今回の調査で住居跡は発見されなかったものの、この時期の集落跡を構成する遺構と位置づけてよいと思われる。

桜山遺跡は範囲の広い遺跡で、分布調査では縄文時代中期の土器も採集されており、時代や時期によって、集落の占拠が異なっていた可能性も考えられよう。今後の調査に期待したい。

の状況をよく示す豊富な資料が出土している。

桜山遺跡から出土した土器は、胴部破片のみであるが、撚りの異なる原体により、比較的幅の広い羽状縄文が施文されている。この点は条痕文系の最終末である小川町越場遺跡第5号土壌(小川町 1999)や、坂戸市中耕遺跡第1号住居跡(杉崎 1993)に後続し、下段遺跡下面1号住居跡や中耕遺跡第5号住居跡出土土器に近いものであろう。

花積下層式土器は、現在3段階に細分されているが、今回の出土資料はこのうち最も古い段階に相当するものであろう。

石器については、第6号土壌から出土した打製石斧や、集石遺構から出土した磨石も同時期と判断した。

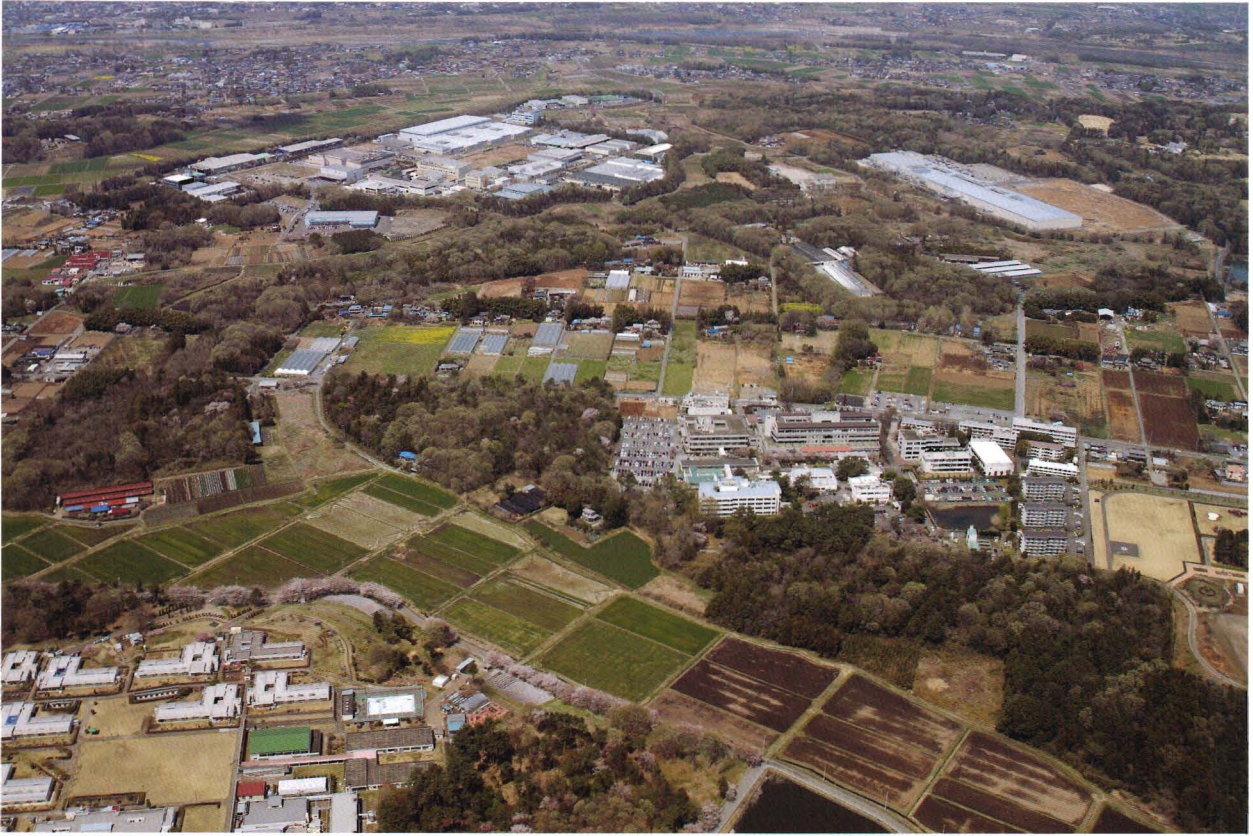
今回の発掘調査では、出土遺物は少量であったが、集落の存在が推定できた。周辺には小規模ながら前期初頭頃の遺跡が存在しており、この地域にも規模の大小はあれ、人々の生活は連綿と引き継がれていったことが明らかである。

## 引用・参考文献

- 新井 端 森田安彦 1996『千代遺跡群―山神遺跡―』江南町教育委員会 江南町千代遺跡群発掘調査会
- 磯崎 一 1992『白草Ⅰ』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第118集
- 今井 宏 1984『屋田・寺ノ台』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第32集
- 植木智子 1997『滑川嵐山ゴルフコース内遺跡群』滑川嵐山ゴルフコース内遺跡群発掘調査会
- 大谷 徹 1995『桜山遺跡』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第162集
- 小川町史編集委員会 1999『小川町の歴史 資料編Ⅰ考古』小川町
- 川口 潤 1992『蟹沢・芳沼入・新田坊・尺尻・尺尻北』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第119集
- 川口 潤 1993『白草Ⅱ』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第129集
- 金子直行他 1993『四反歩遺跡』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第130集
- 金子直行・川口 潤 1991『円阿弥・竹ノ花』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第105集
- 金子直行 1994「縄文早期終末から前期初頭に於ける羽状縄文系土器群の成立について」『第7回 縄文セミナー 早期終末・前期初頭の諸様相』縄文セミナーの会
- 江南町史編さん委員会 1995『江南町史 資料編Ⅰ考古』江南町
- 塩野 博 2004『埼玉の古墳〔大里〕』株式会社 さきたま出版会
- 杉崎茂樹 1993『中耕遺跡』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第125集
- 谷藤保彦 1994「群馬県における早期終末・前期初頭の土器」『第7回 縄文セミナー 早期終末・前期初頭の諸様相』縄文セミナーの会
- 西井幸雄 1989『下段遺跡』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第87集
- 藤巻幸男他 1993『五目牛清水田遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書 第144集
- 村上伸二 2000『金平遺跡Ⅱ』嵐山町遺跡調査会報告9 嵐山町遺跡調査会

# 写真図版





1 桜山遺跡遠景（南から）



2 調査区全景





1 第1号集石遺構遺物出土状況（南から）



2 第1号集石遺構（南から）





1 第1号土壙（南東から）



5 第6号土壙（北から）



2 第2号土壙（北から）



6 第7号土壙（東から）



3 第3号土壙（北から）



7 第9号土壙（東から）



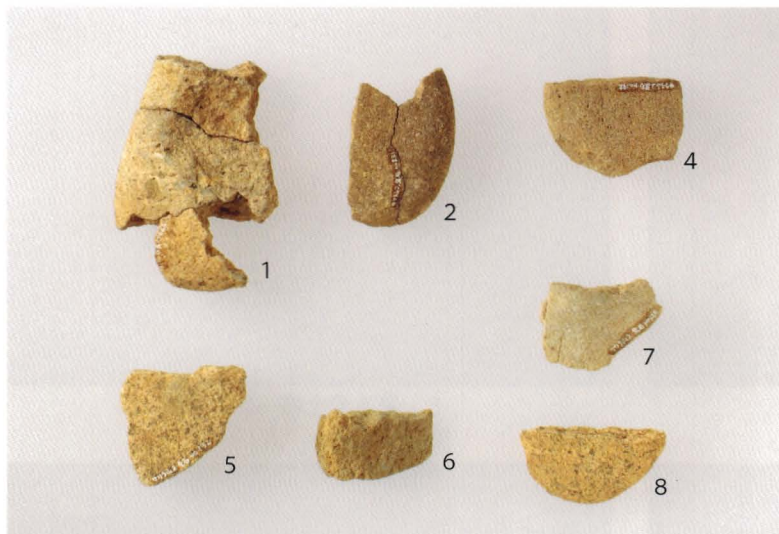
4 第4号土壙（北から）



8 石槍出土状況（東から）



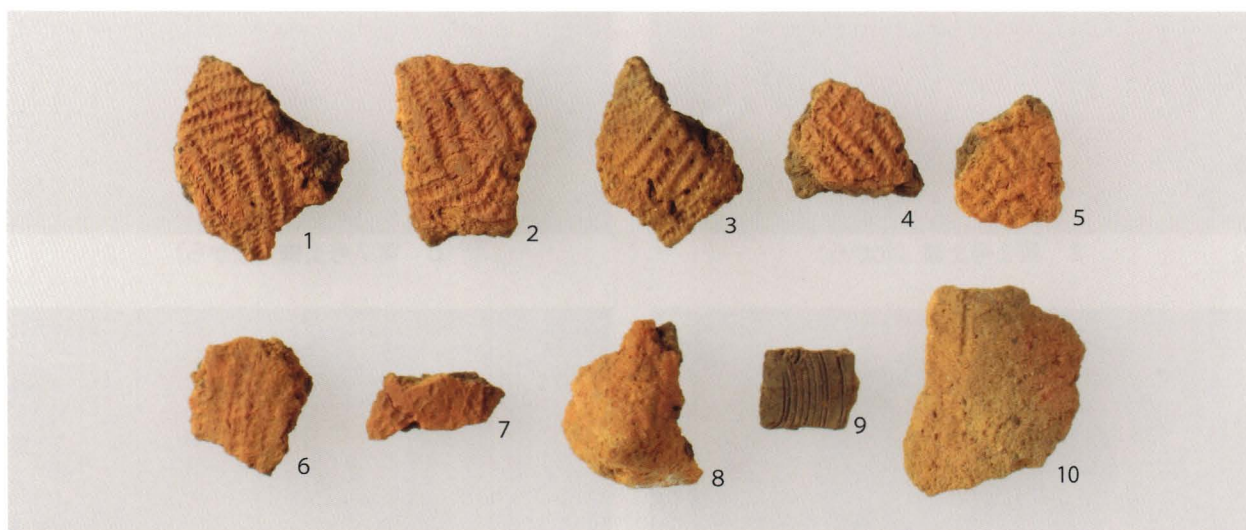
図版 4



1 第1号集石遺構出土石器 (第8図1・2・4~8)



2 第6号土壙出土石器 (第8図12)



3 グリッド出土石器 (第11図1~10)



4 グリッド出土石器  
(第11図11)



5 グリッド出土石器  
(第11図12)



6 グリッド出土石器 (第11図13~16)

## 報告書抄録

ふりがな	さくらやまいせき							
書名	桜山遺跡Ⅱ							
副書名	埼玉県立循環器・呼吸器病センター駐車場整備工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第395集							
編著者名	細田 勝							
編集機関	公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1 TEL0493-39-3955							
発行年月日	西暦2012年（平成24）7月26日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
さくらやまいせき 桜山遺跡 (第2次)	くまがやし おおあざいたい 熊谷市大字板井 ほか 1697-2他	65	53	36°06'42"	139°18'12"	20120405 ～ 20120431	600m <sup>2</sup>	駐車場整備
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
桜山遺跡	集落	縄文時代  古代	集石遺構 1基 土壌 9基  溝跡 1条 柱穴 24基	土器 石器		縄文時代前期初頭と考えられる集石遺構が検出された。 出土した礫は熱を受け割れたもので、なかには石器の破片も含まれていた。		
要約	<p>桜山遺跡は江南台地の中央部に位置し、荒川の支流である和田川左岸に立地する。平成4年度に行われた第1次調査では、奈良時代の住居跡や土壌、溝などが発見された。今回の調査では、縄文時代の集石遺構や土壌などが発見された。集石遺構から出土した礫は、被熱し割れたものが多いことから、蒸し焼きなどの調理に用いられた後に廃棄された可能性が高い。出土土器は繊維を多く含み、羽状縄文が施文された尖底土器であることから、前期初頭の花積下層式と考えられる。</p> <p>土壌や集石遺構などは、和田川から延びる谷の周囲に広がっていると予想される。住居跡の検出はなかったが、集石遺構や土壌からは磨石や石斧などの石器も出土しており、今回の調査区が縄文時代前期集落の一部であることは疑いない。</p>							

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第395集

## 桜山遺跡Ⅱ

埼玉県立循環器・呼吸器病センター駐車場整備工事に係る  
埋蔵文化財発掘調査報告

平成24年7月19日 印刷

平成24年7月26日 刊行

発行／公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 熊谷市船木台4丁目4番地1

電話 0493(39)3955

<http://www.saimaibun.or.jp>

印刷／朝日印刷工業株式会社